

## 新地町の現状と取り組み

- ・津波被害等による仮設住宅等入居

117名/727名（26年4月）

（小学校86名 中学校31名）

津波等の直接的被害児童生徒の2割

- ・原発事故避難による区域外就学

63名（26年度）

（小学校51名 中学校12名）



## ICT活用に関するこれまでの経緯

- ・23年1月～2月にかけて「絆プロジェクト」事業の機器整備完了

（23年3月11日震災被災）

- ・23年度ICT活用発表会（24年 1月27日）
- ・24年度ICT活用発表会（24年11月16日）
- ・25年度ICT活用発表会（25年 9月18日）
- ・26年度ICT活用発表会（25年11月14日）

まずは使ってみよう！  
そこからスタート

成果と課題を  
その都度発信

- 教員・児童生徒の機器活用能力・ICT支援員の支援力の向上、保護者の事業理解

- 様々な手法の検証実績による成果と課題の確認

例1：体育での遅延カメラ 例2：総合での海外を旅する冒険家とのリアルタイムな交流 例3：社会科での遠隔地生徒との交流（沖縄） 例4：英語での海外生徒との交流（オーストラリア） 例5：家庭「スーパー食育事業」と関連を図った、3校同時の遠隔授業 例6：タブレットPCを使った音楽や体育、算数等の家庭学習

○ 学校での学習

総合的な学習でのARコンテンツ活用

2月9日の授業

(新地町立福田小学校)

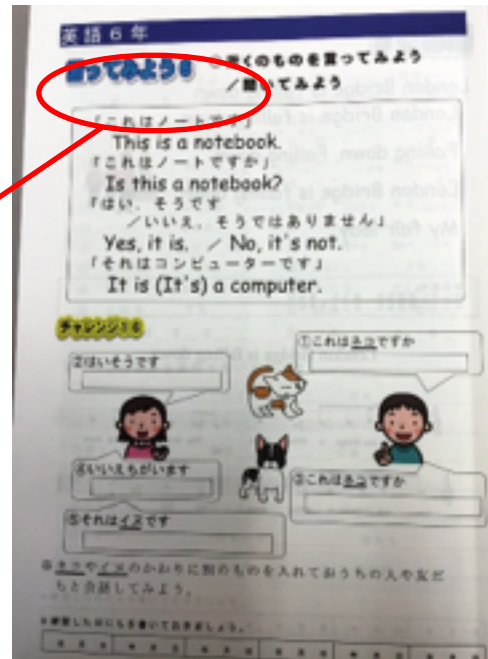
1 / 2 成人式 保護者にメッセージを贈る。



【SkypeによるAR研修会】



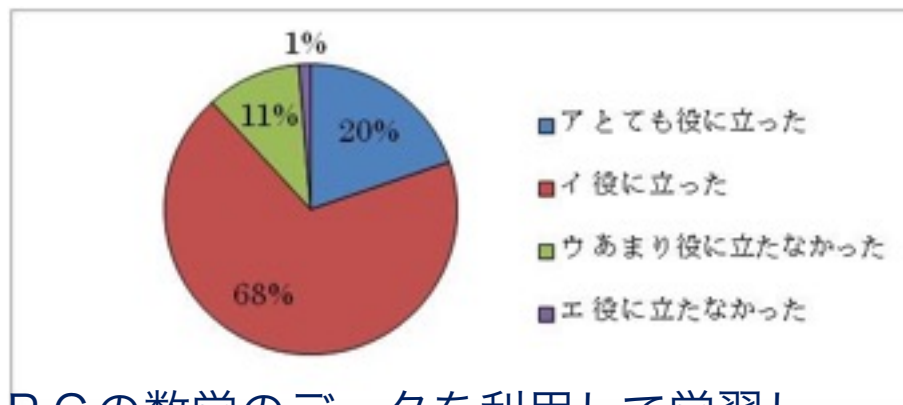
児童家庭学習用問題集  
外国語での活用  
「音声が出る。」



## ○ 家庭でのタブレットPCを使った持ち帰り学習

持ち帰りのアンケートの結果

タブレットPCを持ち帰ることが家庭学習に役立ちましたか。



下位20名のうち、タブレットPCの数学のデータを利用して学習し、役に立ったと回答した生徒は16名

- ・ 偏差値があがった生徒は10名
- ・ 偏差値に変化がなかった生徒は3名
- ・ 偏差値が下がった生徒は3名

**PCのセキュリティー・情報モラルの観点から**

**本年度は、小学校では実証クラスを決めて、**

**家庭学習のために持ち帰る。他のクラスでは、**

**始業前、昼休み、放課後にて模擬家庭学習。**

**保護者に使用マニュアルを提示し、保護者説明会**

**を開催して全面実施に移行する。**



これまでの取組の現状

- ・通信環境が無い条件下による、家庭学習のT P C利用
- ・I C T支援員と連携した授業構築・デジタル教材作成
- ・I C T活用発表会による教員の授業力向上と他地域への事例紹介（身につけさせたい子供の力の育成強化）

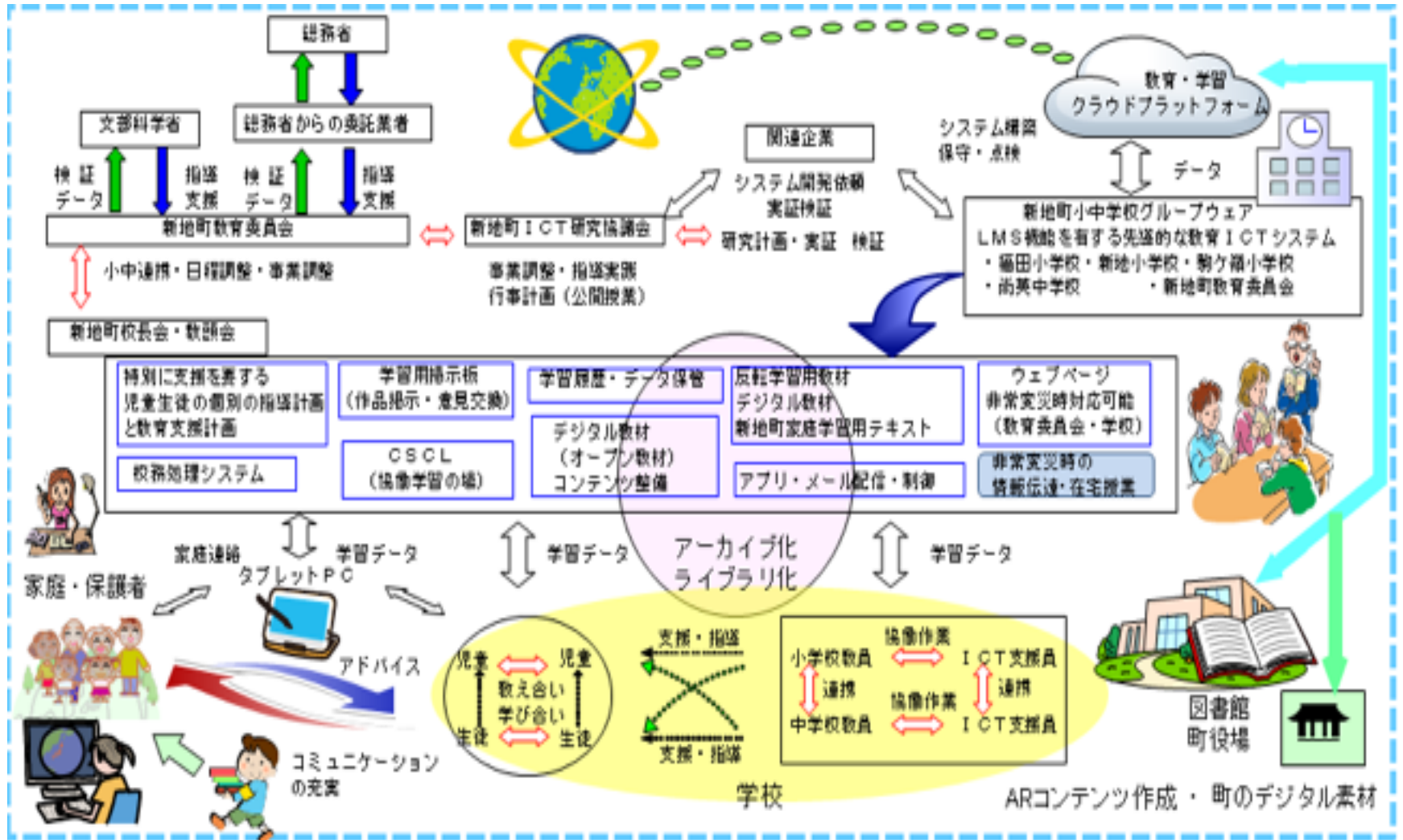
これからの課題

- ・家庭学習を意図的・計画的に充実させての学力向上
- ・震災後の多面的な心のケア、適切な情報モラルの定着
- ・I C Tを活用した指導力向上、他地域への普及
- ・児童生徒の学習履歴の積極的活用と一元管理

事業概要

- A 新地町I C T研究協議会を中核としたI C T教育体制の構築
- B 町内各小中学校を結ぶ共通イントラネット・クラウド環境・L M Sの構築
- C 学習・教育クラウド・プラットフォームを活用した家庭学習
  - ・反転授業・家庭学習の充実、MOOCs型教材（スーパー食育事業とも関連）
- D クラウドを活用した教材のオープン化・ライブラリ化・アーカイブ化・素材の共有
- E I C Tを活用した児童生徒のケア・不登校時等の教育・学習支援
  - ・テレビ会議システムによる教育相談・授業、学習内容配信・指導助言、連携
- F I C Tを活用した交流学习
- G L M SとC S C Lの活用（児童生徒管理と学習履歴の管理・活用）
- H 教職員の研修体制の構築（ICT活用発表会による指導力向上、先進地域での研修）

# 本事業の実施体制図



## 26年度までの実戦から見えてきた課題

(他地域での実践も考慮した課題)

- ・ タブレットPCやモバイルルーターは児童生徒分の台数が理想  
(低学年からでも使いこなすことは可能)
- ・ モバイルルーター通信量制限の解除 (現在の設定では1GB/月)
- ・ 使用実態に合ったクラウド側ソフトの対応  
(ソフトの内容、不具合への相談窓口がスムーズに行える体制整備)
- ・ フィルタリングの研究体制強化  
(総務省のポータルサイトへのみアクセス可能だが状況により解除できる環境)

注意点：児童向け大手ポータルもあるが、それらでも抜け道があるため、フィルタリングの考え方自体を研究する必要がある。

## クラウドを活用した 27年度の取り組み

取り組み構想を7つに分けて次のように提案

- 1 タブレットの持ち帰りによる家庭学習の充実
- 2 LMSを活用したCSCL協働学習
- 3 特別支援児童生徒や不登校児童生徒への対応（遠隔授業）
- 4 各学校の連携・教師間の情報交換や共有
- 5 ARコンテンツ等を活用した学習の意味づけと地域との関わり
- 6 アプリやWebサイト制限による考える力の育成
- 7 その他様々な学習支援の応用や非常時への対応

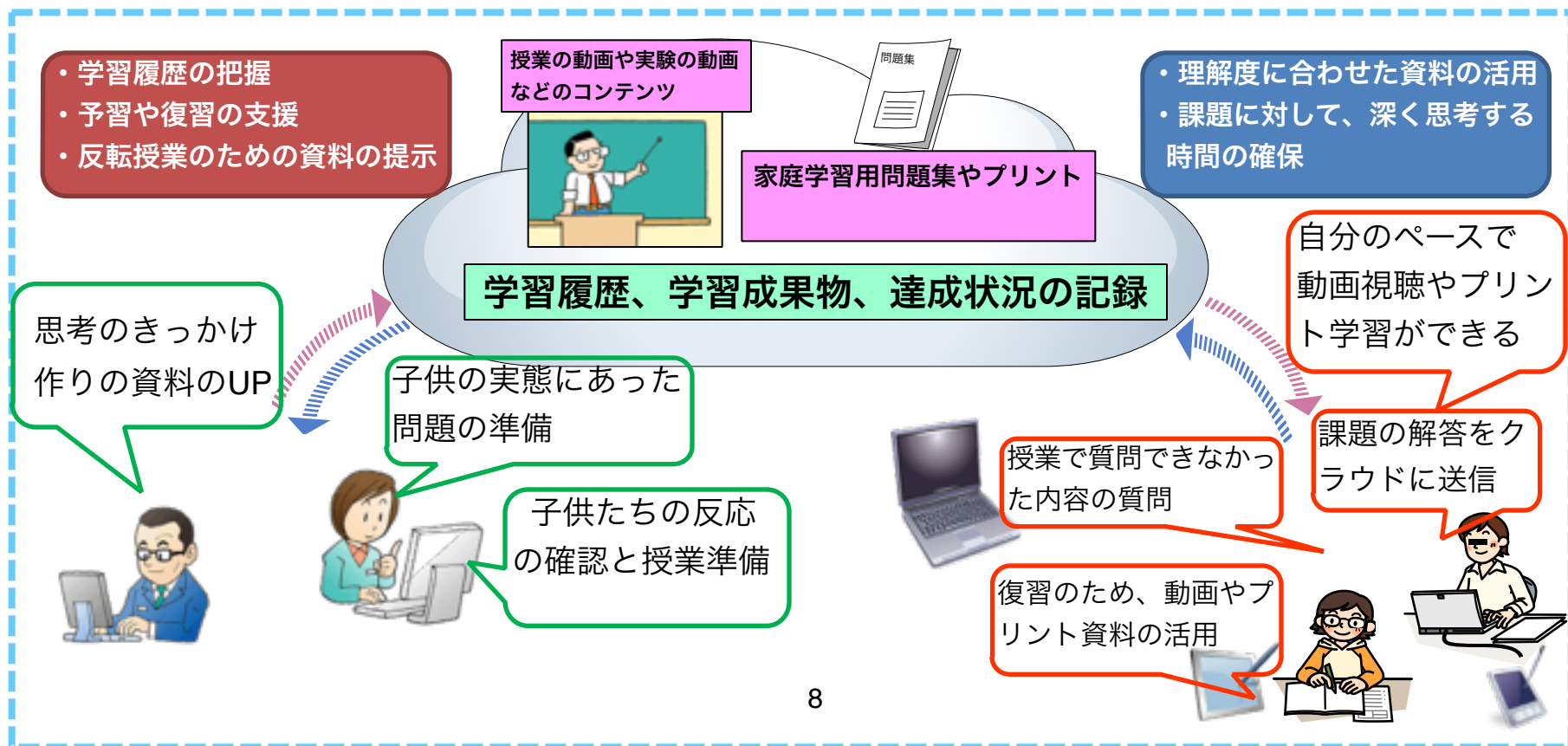
※ これらを実際に運用させるためには、新地町のICT活用協議会での話し合いを経て、教員及びICT支援員のクラウド活用に関する研修会の実施と関係団体（各学校・自治体・大学・企業・その他等との連携が必要。

## 提案内容 1

# 学習・教育クラウド・プラットフォームを活用した家庭学習

## 「タブレットPC」による家庭学習の充実・学習習慣の確立

- ・ 家庭学習用問題や自作デジタル教材、プリントなどのライブラリ化やアーカイブ化
- ・ MOOCs型のデジタル教材を活用した反転授業



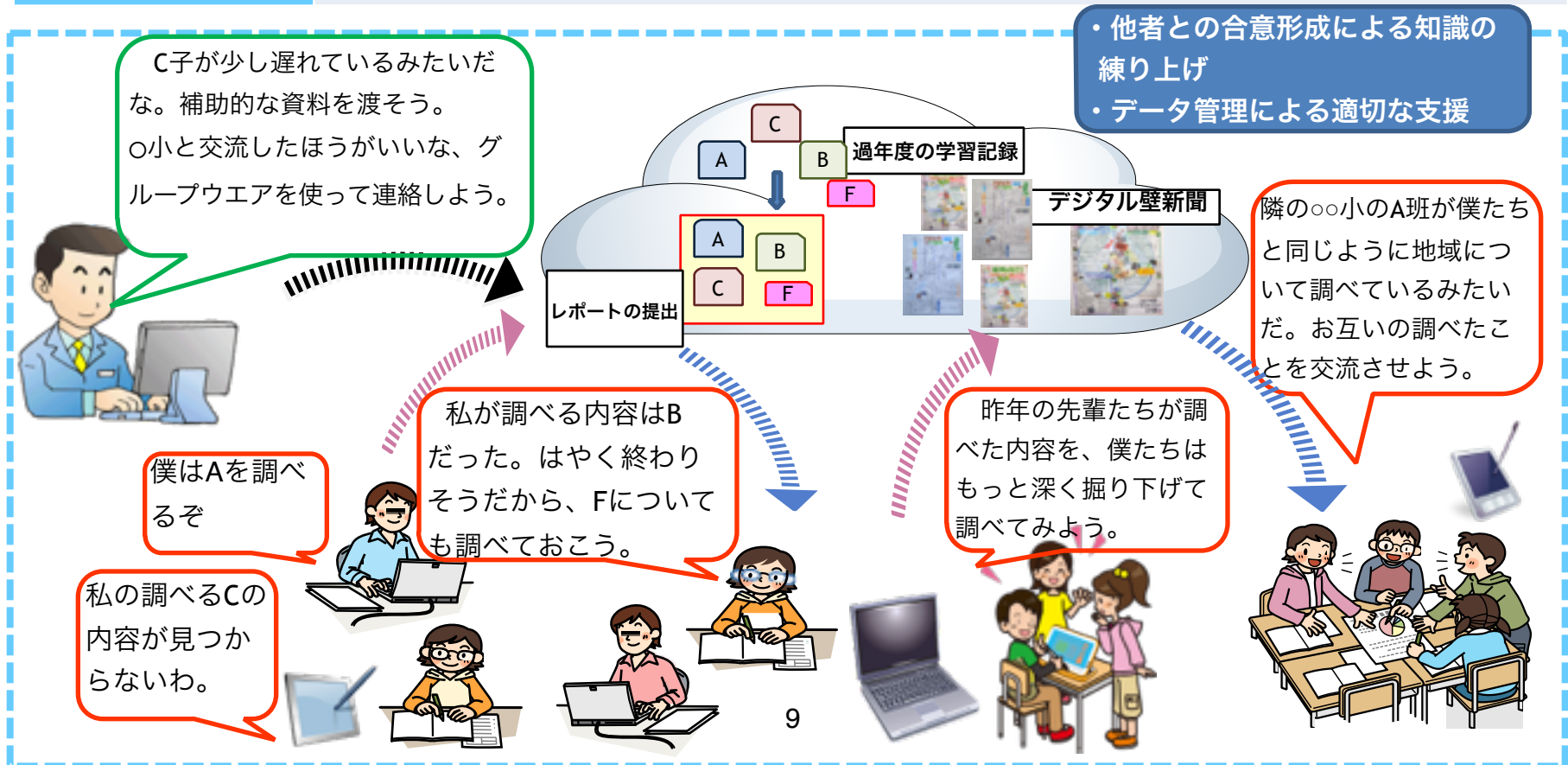


# LMS(eラーニング)・CSCL(協働学習)の活用

## 学習者の履歴や進捗状況の確認、学習者相互の知識構築や問題解決を促す協働学習の場の提案

### 提案内容 2

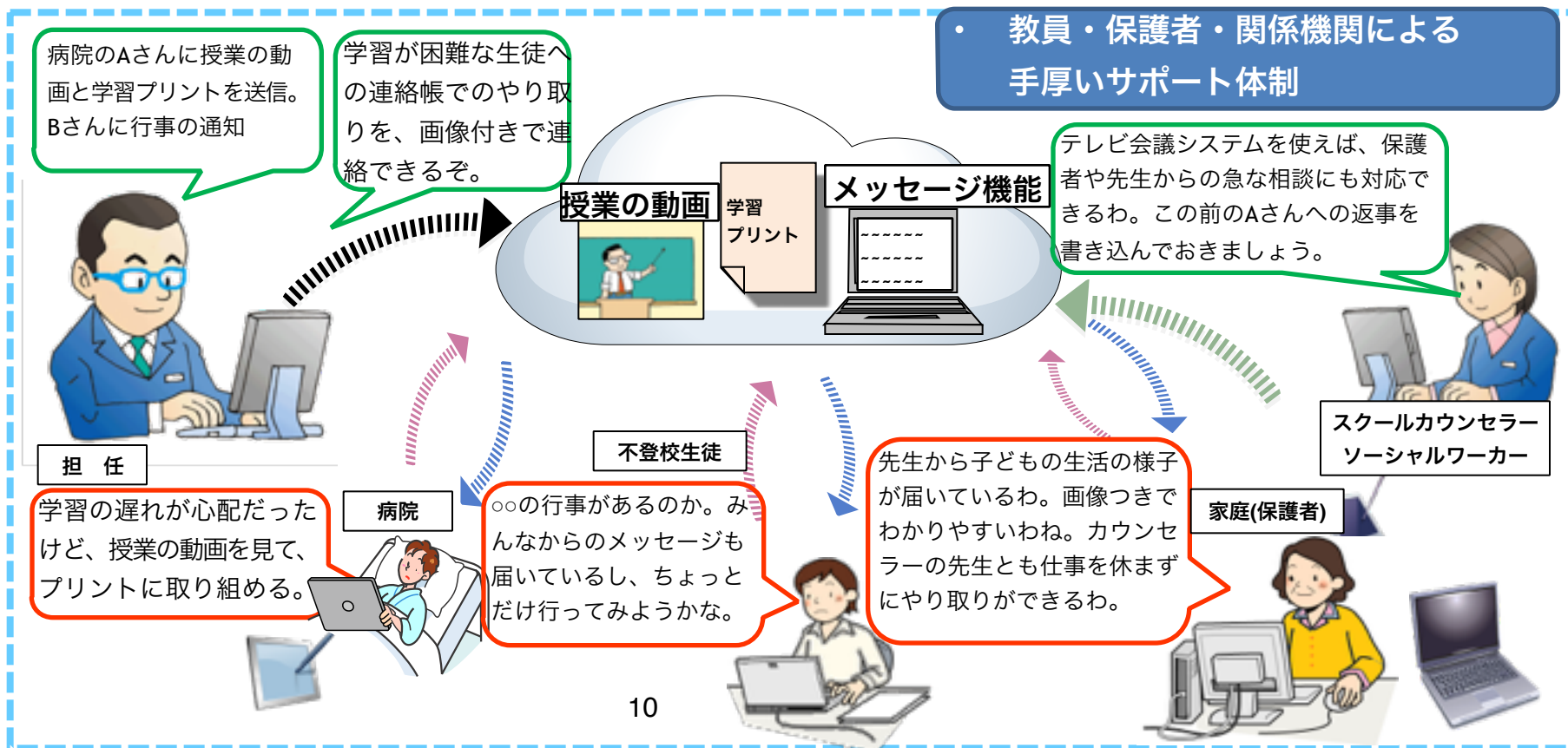
- ・ 学習に関するデータの蓄積及び管理
- ・ 協働学習による「知」の定着



## 提案内容 3

# 学習に困難のある児童生徒のケア及び不登校等の教育・学習支援 学びのサポート体制の充実による児童生徒の自己実現

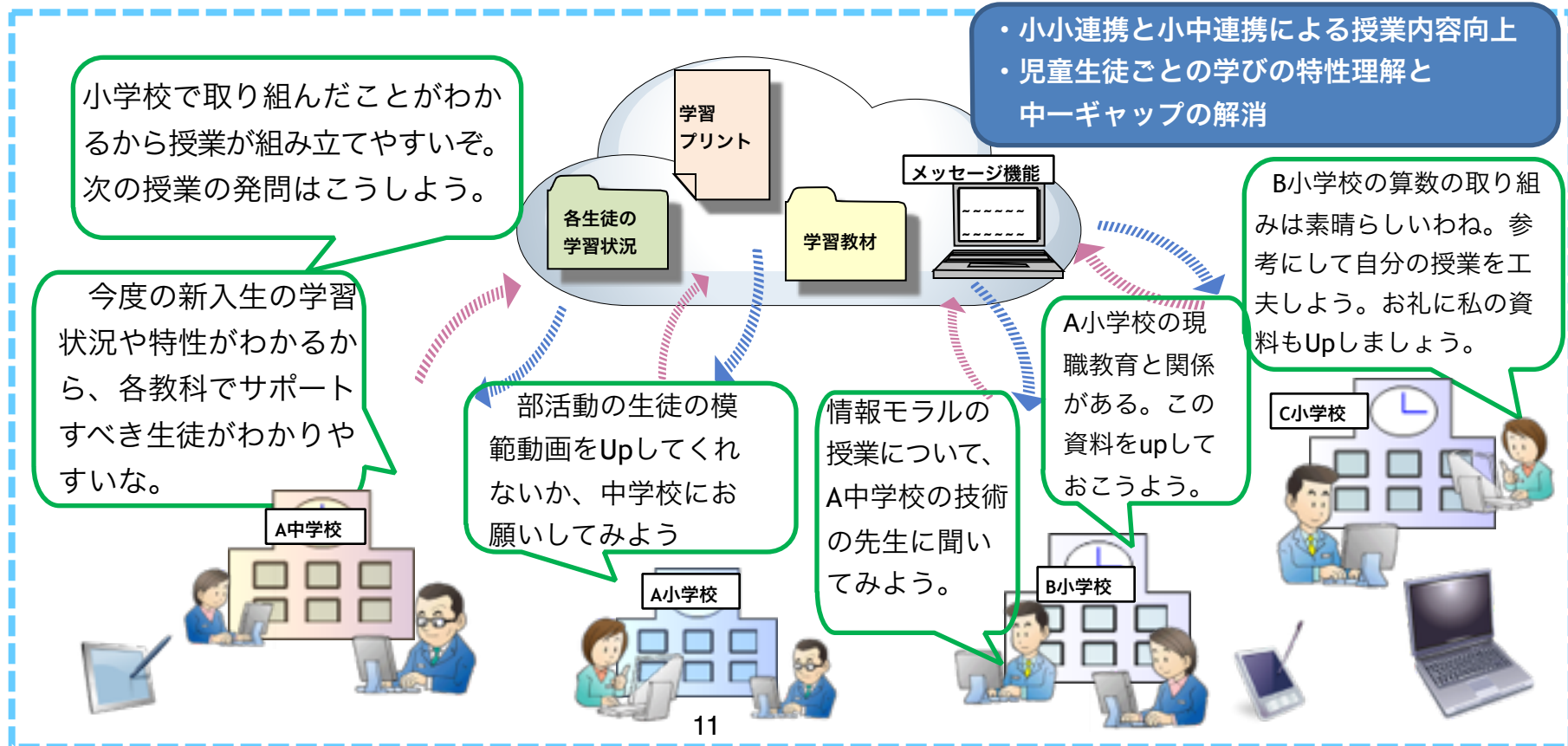
- ・ 学習内容（学習プリントや授業動画）の配信
- ・ 教育相談の充実と関係機関との連携



## 提案内容 4

# イントラネットを利用した各学校の連携 教員同士の教材共有による質の高い授業の展開 児童生徒についての情報交換によるサポート体制の構築

- ・ 教員が作成した教材や収集した資料の共有
- ・ 児童生徒一人ひとりの学びの特性情報の共有



## 提案内容 5

### ARコンテンツ作成による児童生徒の町とのかかわり強化 学びの成果を発表する場作りとそれによる地域の活性化

- ・ 学ぶ目的の明確化及びそれによる意欲の向上
- ・ 対象を意識した発表による、思考・判断・表現力の向上

- ・ 明確な利用目的と学習に対する意欲の向上
- ・ 利用者を考えた表現方法の工夫

#### デジタル壁新聞

#### 調べ学習動画

#### 記録動画

どんな表現にしようか。動画のセリフを決めて撮影しようよ。

調べた内容をみんなに紹介しようよ。

遺跡の看板や町内マップ、Webサイトや広報のQRコードから、子どもたちがまとめたものを見られる。おっ、ここでは子どもが説明している動画も見られるぞ。

新地町のことをよくまとめているな。観光に来る人にもわかりやすいし、地元の人も楽しく見られる。

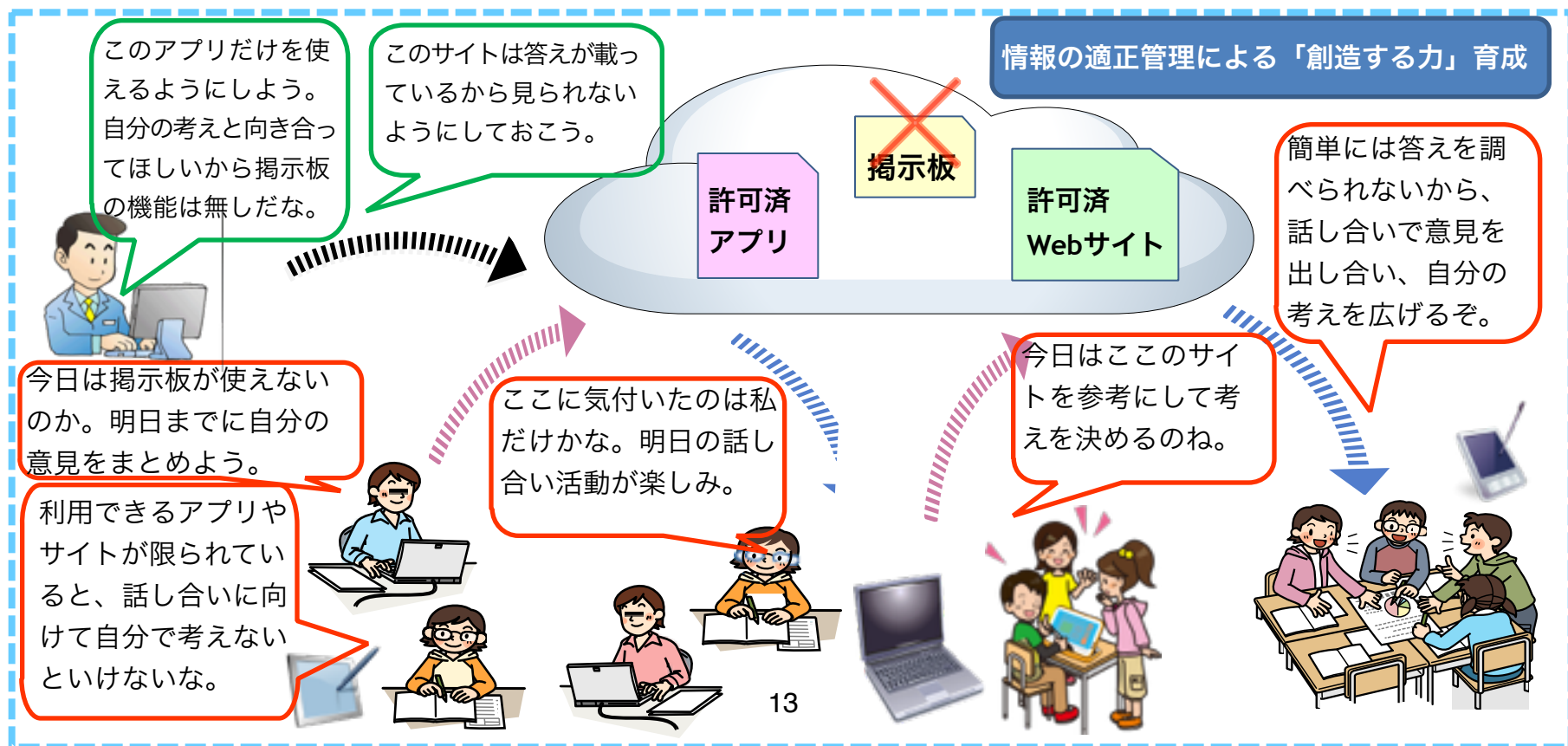
町の広報誌・  
史跡等へのコード

## 提案内容 6

### 児童生徒が利用するアプリ及び利用権限の制限

利用制限を与える機能により、学習者が情報に惑わされることなく課題にじっくりと取り組む時間を確保

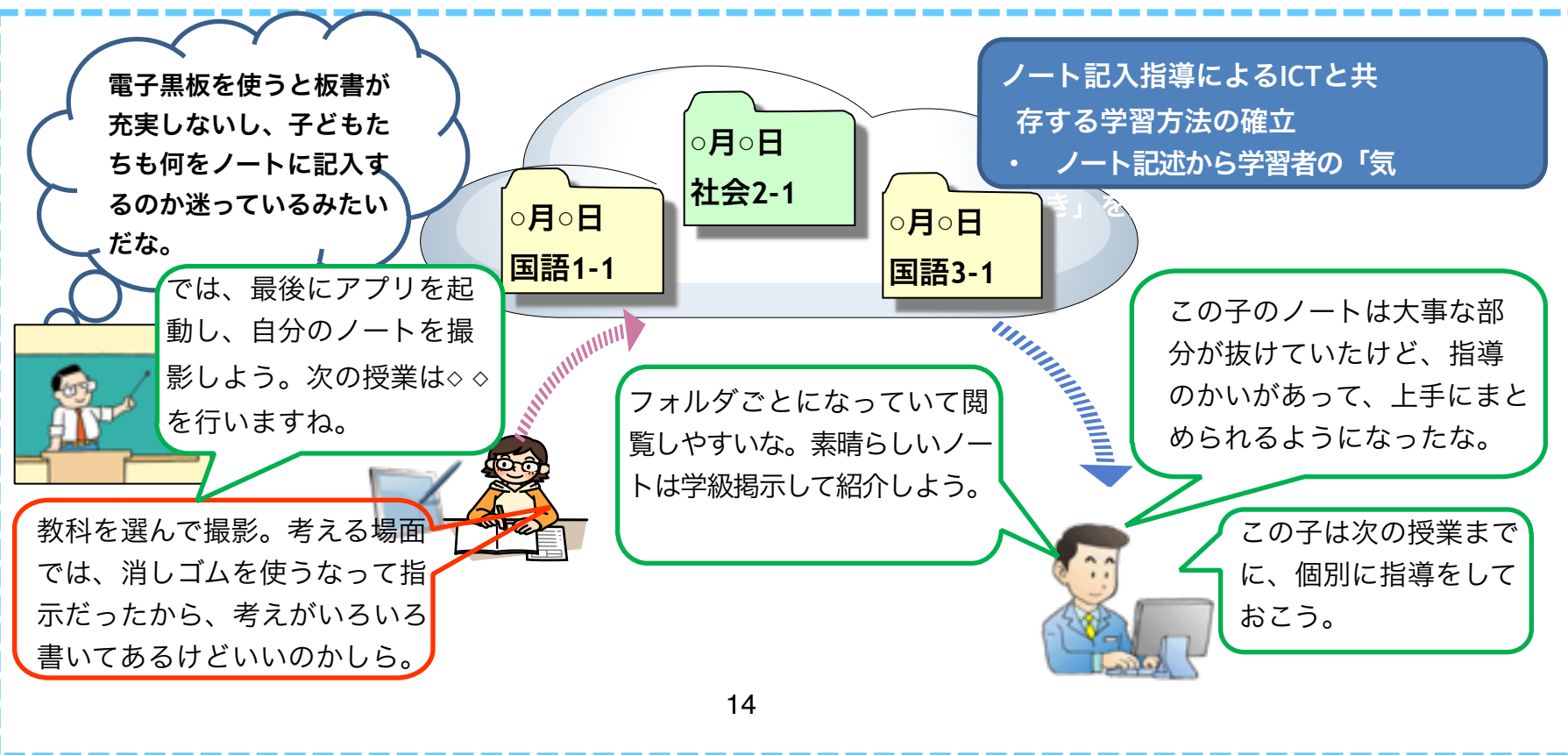
- ・ 利用アプリの制限と利用可能Webサイトの制限



## 提案内容 その他

# 学習者のノートを記録、自動的に各教科フォルダへ振り分け 電子黒板等ICT機器使用によるノート整理の不安解消及び学習者の フォローアップ

- ・ 簡単な操作によるノートの記録
- ・ 自動的なフォルダ振り分けによる閲覧時の負担軽減



# 提案内容

その他

クラウドを活用しての非常変災時の早期対応と授業実践  
非常変災時における緊急メール等の一斉送信  
自宅待機中の授業実施・健康状態・学習状況・履歴確認

